

セーフティーアーム® シリーズについて

歩くことで元気に

セーフティーアーム®を使用して、リハビリ・歩行することで体力が消耗します。体力が消耗すると空腹を感じ、食事を美味しく食べることができます。また、歩くことで脳が刺激され、意欲が増すと「あれが食べたい」「ここへ行きたい」などの要求が出るようになります。自分でできることが増えるとそれが「楽しみ」となり、生活にメリハリができます。歩行訓練だけでなく、お散歩やお買い物など楽しみながら歩行する時間を積極的に取り入れてみてはいかがでしょうか？

使用環境の整備を忘れずに

室内で使用する場合、毛足の長い絨毯はキャストに絡まり、敷居などのちょっとした段差でも歩行器がスムーズに走行できない原因となります。また、壁や家具などに歩行器がぶつかりキズが付いてしまう場合も考えられます。歩行器導入の際は使用環境の整備と動線の確保、壁や家具の保護などもご提案ください。

セーフティーアーム®シリーズは約40種類

一般的な固定式・交互式・キャストタイプ・ハンドルブレーキタイプ・アームレストタイプなどの歩行器・歩行車が約40種類あります。握り手やハンドルの形状・ブレーキ操作方法・特大かご・座面付きなどお身体の症状はもちろん、使用する場所・使用目的などに合わせて選択できます。

車いす前のリハビリに

歩行に不安があり、転倒をおそれて使い始める車いす。座ったままの状態が続き、脚を使わないことで次第に筋力が衰え、立つことも歩くことも、ままならなくなることも考えられます。自立歩行が不安な場合、セーフティーアーム®シリーズが歩行をサポート。「立つ力」と「歩く力」をリハビリしましょう。脚のリハビリはもちろん、歩行器を持ち上げたり、ブレーキをかけたり、グリップを握ることで手のリハビリにもなります。

専門家に相談しましょう

お身体に合わない歩行器を使用すると症状の悪化や転倒の原因となるおそれもあります。また、お身体の症状が変わり、歩行器がお身体に合わなくなる場合もあります。セーフティーアーム®シリーズを選択する際や、高さを決める際、また、お身体に合わせて歩行器を再選定するなど医師・理学療法士・ケアマネジャー・福祉用具専門相談員・介護福祉士などにご相談ください。



こんな時
ありませんか？

両手でステッキを使用している時

脚のリハビリをしたい時

つたい歩きに不安を感じている時

セーフティーアーム®シリーズが
歩行をサポートします。

セーフティーアーム® シリーズは約40種類

お身体の状態・使用場所・目的に合わせて選択できます。

ハンドルグリップタイプ

アームレストタイプ

固定式歩行器 歩行器の基本形。	交互式歩行器 フレームを交互に動かして歩行。	キャスト付き 室内専用・屋内外用など目的に合わせて選択。	キャスト・ハンドルブレーキ付き 屋外での使用にもおすすめの大径タイヤ使用。	かご付き歩行車 特大かごや座面など用途に合わせて選択。

ハンドルブレーキ付き 軽量・折りたたみOK持ち運びに便利。	片手操作できるハンドルブレーキ付き 後輪タイヤは速度調整機能付。

- 参照 P.19-25 ▶
- 参照 P.26 ▶
- 参照 P.21-24 ▶
- 参照 P.15-16 ▶
- 参照 P.9-14 ▶
- 参照 P.3-6 ▶
- 参照 P.7-8 ▶

「セーフティーアーム」は株式会社イーストアイの登録商標です。